

やさもっさ新聞は三原を元気にする多くの企業様に支えられ発行しております。

有限会社IWILL土居写場
 株式会社赤石硝子建材
 赤谷木材株式会社
 有限会社安芸緑化機材
 公認会計士浅田勝彦事務所
 池田電工
 岩西自動車
 有限会社上田製版印刷所
 株式会社ウツミ
 宇野事務所
 株式会社エヌワイティグループ
 株式会社大石製作所
 大下建設株式会社
 大東印刷株式会社
 オートドリーム三原
 株式会社小川電気工事
 奥田自動車
 有限会社お茶の平野園
 小野税理士事務所
 有限会社笠下工務店
 有限会社片山自動車工業
 勝原不動産株式会社
 株式会社勝村商店
 勝村木材株式会社
 株式会社ガルバ興業三原工場
 寿司・割烹かわ蝶
 有限会社河本商店
 株式会社関西通商
 有限会社完山商店
 共立電機産業株式会社
 有限会社共和設計
 共和不動産株式会社
 株式会社桐島電気サービス
 熊野開発株式会社
 株式会社倉橋匠栄堂
 警備保障イーグル88
 医療法人仁康会小泉病院
 広愛産業株式会社
 株式会社コグマヤ
 極楽寺
 小松木工株式会社
 株式会社サービスセンター
 株式会社阪井養魚場
 株式会社坂元鉄工業
 株式会社笹井産業
 有限会社サニー住設
 株式会社SunEighT
 三陽環境管理株式会社
 山陽建設株式会社
 山陽製粉株式会社
 有限会社シー・イー・サプライ

CBテクノロジー株式会社
 しまなみ信用金庫
 株式会社住創
 順勝寺
 株式会社正田文華堂
 株式会社スミダ
 株式会社セイム
 セブンイレブン世羅町店
 惣田司法書士事務所
 ダイヤモンドゴルフ練習場
 タカシンホーム
 瀧宮神社
 有限会社タクトコーポレーション
 竹本自動車
 田中運輸株式会社
 田辺製麩工場
 有限会社多森薬局
 有限会社中央地所
 有限会社中国補聴器
 くし焼き狄組
 有限会社寺迫組
 有限会社東垂不動産
 トータルサポートTSC
 和食処登喜将
 富野機工株式会社三原営業所
 株式会社中野産業
 中間醸造株式会社
 なぎさ医院内科・皮膚科
 株式会社ナンバ洋服店
 有限会社西岡設備
 にった文具店
 日本生命保険相互会社
 NEJIRIO
 有限会社野竹電工
 株式会社八天堂
 株式会社原アルミ建材
 ハローランチ株式会社本郷給食センター
 光自動車ガラス専門店
 桧山泰三税理士事務所
 平田歯科医院
 有限会社広興
 広島電気工事株式会社
 ファミリーレストラン太陽樹高須店
 農事組合法人風舎
 株式会社富久屋
 福山工業株式会社
 株式会社藤井
 藤井建設株式会社
 藤井稔久税理士事務所
 富士金属工業株式会社
 株式会社BRIGH T

フジグラン三原
 株式会社ブリッジ
 株式会社古川製作所
 株式会社古林電機
 フルモト建機株式会社
 ヘアサロンにしはら
 ホンダカーズ三原皆実店
 有限会社本田石材工業
 株式会社まじま製麺
 益谷建設株式会社
 松尾社会保険労務士事務所
 丸源ラーメン三原店
 株式会社丸善商會
 株式会社みどり商會
 有限会社みどり書店
 みどり幼稚園
 瀬戸内開発株式会社
 三原郷心社会
 三原共同生コン株式会社
 株式会社三原国際ホテル
 株式会社三原シティホテル
 三原重量有限会社
 三原松操有限会社
 三原末広簡易郵便局
 三原タイヤ株式会社
 M・C・A・T三原テレビ
 三原電機有限会社
 株式会社三原美装社
 三好印刷株式会社
 有限会社村上鉄工所
 株式会社もみの木畳店
 盛影塗装株式会社
 もりきんデザイン
 株式会社森剛研
 有限会社モリタ美研
 上菓 三原の味です。名物です
 献銘 ヤッサ饅頭本舗 ヤッサ饅頭本舗

もっと知って三原JC!

やさもっさ新聞



発行所 一般社団法人 三原青年会議所
 〒723-0052
 広島県三原市皆実4丁目8番1号
 三原商工会議所内2階
 TEL : 0848-63-3515
 FAX : 0848-62-1141
 mail : info@mihara-jc.com
 編集 広報教育委員会

ゆるい、まちづくり

ゆるいコミュニケーション
若者と織りなす新しいまちのストーリー



わかしん ゆうじゅん 若新雄純さん

一般社団法人 三原青年会議所では1ヶ月に1回会員が集い研修を行う例会を開催しています。5月19日に行われた5月例会では、地域の大人が若者の習性や関わり方を学ぶため、株式会社NEWYOUTH代表取締役の若新雄純さんに「ゆるいコミュニケーション～若者と織りなすまちの新しいストーリー～」と題し、ご講演いただきました。若新雄純さんは、大学院在学中、産業・組織心理学を専攻し、現代社会における若者のワークモチベーションや自律型キャリア開発について研究されました。2013年には100人以上のニートが全員取締役になり設立したNEET株式会社や、2015年度の総務大臣賞を受賞した、福井県鯖江市の女子高校生達がまちづくりを担う公共事業「鯖江市役所JK課」。また、週休4日で月収15万円の「ゆるい就職」など新しい働き方や組織づくりを模索・提案する実験的プロジェクトを多数企画・実施されておられます。上記の取り組みと独特のスタイルが注目を集め、近年ではニュース番組などのコメンテーターとしての出演や、日本全国の企業・学校・自治体向けの講演など活動の幅を広げておられます。今月のやさもっさ新聞では、若新雄純さんの講演内容の中から若者の皆様にお届けしたいものをピックアップしましたのでご覧ください。



QRコードをよみこんで
みはらJCのかわら版を
チェックしてみよう!

三原テレビやSNS等で
情報発信中!
詳しくは4面をご覧ください



「都市計画とまちづくり」

皆様は「都市計画」という言葉は聞いたことはありますか。県庁や市役所には都市計画課があって、「成長社会」ではインフラ整備など都市機能を充実させていくことが大切であった。そのためには莫大な税金が掛かるので役人主導で緻密な計画を立てるわけです。

現代の「成熟社会」では、インフラが整い必要なものは揃っている。便利できれいなまちなので、人が残らない、出ていくといった問題が浮上ってきたわけです。物凄く不便というわけではないが、魅力がいまいちな気がするという人が増えてきた。インフラが整っているだけではダメになってきて、そこで出てきたものが「まちづくり」のコンセプトだったんです。「まちづくり」では「まち」という曖昧なものを如何に面白く魅力的にしていくか、そのためには生活している市民を巻き込んでいく必要が出てきた。

これからのまちづくりには読者である若者の皆様の力が必要不可欠と言われていて、若者と共に考えたり行動する「協働」をしていかないと成功しないと言われていきます。都市計画と違い、楽しみながら、「まち」というものを考えていかなければいけない。ここで私が大切にしている「試行錯誤」というコンセプトが出てくるわけです。

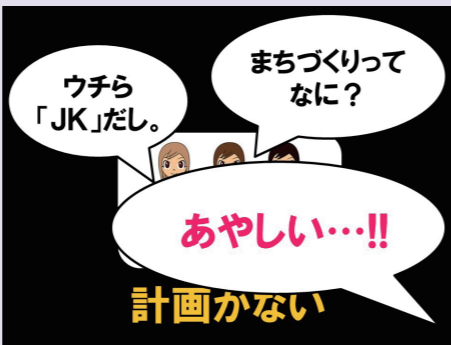


「若者のまちづくり」

皆でやってみて、ダメだったら変えていく。失敗を繰り返す中で今までになかった新しいものを見つけていくことが必要になったんだと思います。私は皆で楽しく協働して試行錯誤するというコンセプトは正に「溢れる」というものであると思っています。

都市計画では答えが明確ですが、まちづくりは答えがはっきりしない「あやしい」ものであると考えます。

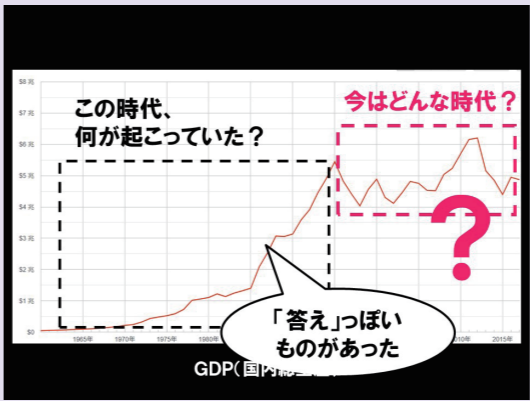
2014年にまちに関心のない普通の高校生を集めてまちづくりを行う「鯖江市役所JK課」というプロジェクトを行いました。そこでは大人が教育しない、考えを押し付けしないとルールを決めずした。ゴールを決めず失敗を気にせず若者と共に悩み共に考え、「？」を楽しんで試行錯誤していきくと新たな発見や気づきがあり、新しい何か生まれました。その結果毎年800回以上集まり通算1000件近い企画・活動が実現できています。



「今の社会は、答えがない社会」

戦後の貧しい時代から高度経済成長期を迎え名目GDP（GDPをその時の市場価格で評価したもの）が拡大した1965年からの約30年間。工業製品の製造や学校や病院・道路や高速道路の建設など先進国を追いかけた時代。国民一人ひとりの稼ぎも右肩上がりでした。

私の父は1950年生まれて学校の先生でした。1972年の初任給が4万円、校長先生をした時は50万円と生涯に掛けて給料が約13倍に。頑張ったら頑張っただけ世の中が成長して個人の収入も増えていく成長社会でした。また、預貯金をすると物価の上昇に伴いお金の価値が下がるので稼いだお金はすぐに使った方がお得な社会でした。



この時代は、何のために働いているのか、何を生きがいにするか、何を良いのか、何を楽しいのか、何を明確に分かりやすかったのだと思います。言い換えると社会全体に「答え」のようなものがあつたのだと思います。

一方で今の時代（約25年間）はどうか。日本のGDPが下がり続けているわけでもなく上がり続けているわけでもない。生活が貧しくなつたわけでもなく頑張ったら頑張っただけ収入が上がらなくてもない「成熟社会」となり、やりたい事

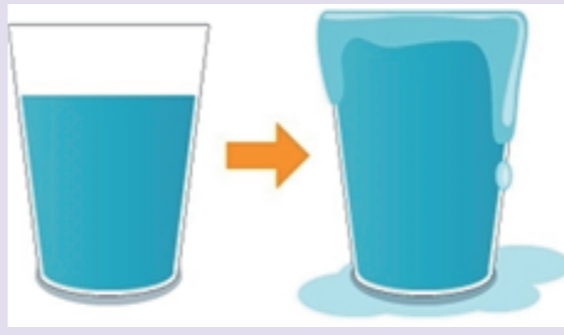
はやり尽くしたし、社会全体に分かりやすい「答え」がなくなってしまったのだと思います。目標も単純に描きづらくなりました。良い車に乗って、良い家を建ててというような分かりやすい目標設定が出来なくなつた。何を目指せば良いかも人の数だけある。

「現代は？(はてな)が多い成熟社会」

「成熟社会」は色々な「？」(はてな)が沢山あるんだと思います。分からないことが多い。これが正しいやり方なのか、正しい働き方なのか、正しい頑張り方なのか、「？」(はてな)が溢れている。世代間にも言えることで違う世代の人々が同じ目標掲げているわけがない。何か活動するときに皆が同じ目線に立とうとするが、それが出来ないのが今の時代の「複雑さ」かなと思っています。

下にコップの図がありますが、「成長社会」では水が足りていないけど、どうやったらいっぱいになるか共通のゴールを皆持っていた。足りないコップに一生懸命水を注いで満たしていく社会だったのでと思います。

一方、現代の「成熟社会」では、コップの水は満ち溢れているのではないかと考えています。



コップの水がいっぱいになった今、私たちは何を頑張ったら良いのか。足りないところ(課題)を探し出して解決するやり方もあるが、私はそこに重要性を感じていません。コップの水を溢れさせていく、無くて良いけどあつたらもっと面白くないものを溢れ出で探していき生き方の方が良いのではないかと考えています。

私はコップから水が溢れていることを「試行錯誤」の世界と呼んでいます。満ちた世界と違って溢れてみないとコップから零れた水が前に流れるのか、横に流れるのか分からない。溢れてみないとどうなるか分からないというような特徴と面白さがあると捉えています。ということは、失敗を繰り返さないといけない。失敗から見通しを立てたり、新しいやり方が分かってくるのだと思っています。

成功すればとても嬉しいことはありませんが、失敗という試行錯誤をどれだけ楽しめるか、ということが今の社会には新しい「？」(はてな)をもたらしやすいのではないかと思っています。他の世代の人々と試行錯誤しながらどう楽しんでいくかは「一緒に溢れ続ける」ことが大切だと感じています。私はこれを「ゆるいコミュニケーション」と呼んでいます。



以上、若新さんの講演内容をお届けしました。共に考え共に悩み楽しみながら試行錯誤を繰り返していくという従来の教育とは違った価値観をお届けできたのではないかと思います。「鯖江市役所JK課」のプロジェクトは当初批判があつたものの活動を続けていく中で市民の賛同を得ることにまりました。今では鯖江市以外でも若者と協働でまちづくりを行う市長村が増えていきます。

一般社団法人 三原青年会議所でも若者の皆様三原のまちをもっと好きになっていただければ、自分たちの住み暮らすまちについて考えたり行動する機会を創出していきます。